

30万時間無災害を達成して

下呂営林署 古川 正美

1. はじめに

私の勤務している宮地担当区は、北は小坂営林署、東は長野営林局王滝営林署に接する、乗政御駈野両国有林1,122haと官行造林地116haを管轄している。

宮地担当区の特徴は、

- (1) 林道幅員が狭く、ヘヤーピンカーブが多い。
- (2) 林道が谷筋を通っているため林道から尾根までの距離が遠い。
- (3) 作業地は30度以上の急傾斜で、しかも破砕帯のため浮石、転石が多い。
- (4) 作業箇所は標高1,400m以上の林地が多く、気象害を受けやすい。
- (5) 施業は天Iであり、笹生地が多い。(特殊下刈作業が多い)

両国有林には、昭和30年代には30名以上が事業に従事していたが、42年に生産事業が終了し、以降年々人員が減少し、現在は基幹作業職員5名が造林班を構成して作業をしている。

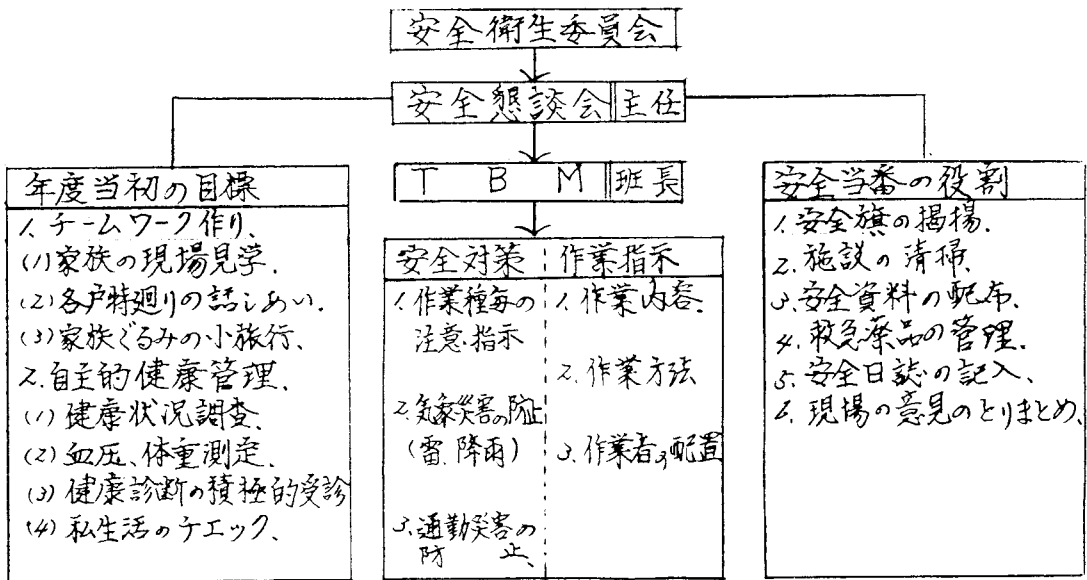
こうした中で、私の班では44年6月、刈払機による下刈作業中、古い笹の切り株が飛散し、右眼に受傷した災害以来、今日まで無災害を継続し、昨年度、無災害30万時間を達成したので、私の班の行ってきた安全活動について発表する。

2. 造林事業の災害の状況 (図-1参照)

- (1) 年度別発生件数
局管内、下呂署共減少傾向にある。
- (2) 月別発生件数
局管内では6・7月及び11月に集中しているが、下呂署の場合は冬期間に多い。
- (3) 作業種別災害件数
局管内では、下刈、地拵等の事業最盛期に多いが下呂署の場合、除伐、枝打に多い。
- (4) 原因別発生件数
転倒、刃物、跳返り等造林事業の特徴がよく出ている。

3. 安全対策と取り組み

前記造林事業の災害の現状を踏まえて、安全対策と取り組みをまとめると下図のとおりである。



(1) 署と現場の対応

- ア 安全衛生委員会で検討された、安全対策や、署からの指示事項は主任を通じて安全懇談会で通達され、現場での対応を決定する。
- イ 班長は、これに基づき細部の作業指示と安全対策を毎日のTBMの中で行う。
- ウ 安全当番は当番の役割を行い、安全衛生委員会での検討が必要な案件が生じた場合は、主任を通じて署へ提出する。

(2) 現場での実施事項

- ア チームワーク作りのため実施した事項
 - (ア) 家族の現場見学には積極的に参加し職場の理解を得た。
 - (イ) 各戸、持ち廻りとし、酒席を設けて話し合いの場を持った。
 - (ウ) 年に1回程度、家族ぐるみの小旅行を計画した。
- イ 健康管理のための実施事項
 - (ア) 安全当番は、毎朝全員の顔色を点検し、健康状態を聞き取り、異常者の有無を安全日誌に記入した。
 - (イ) 健康の目安として、体重、血圧測定の実施
 - (ウ) 町が行う健康診断にも家族を含め積極的に参加した。
 - (エ) 振動病の認定者、訴え者について、私生活のチェックを実施

ウ 基本動作の徹底のため実施した事項

(ア) 作業種毎の安全対策

造林事業の作業種は、多種多様にわたり、時には毎日作業種が異なる事もある。

これらに適切に対応するため、班長は作業種毎に過去の災害事例を十分分析、把握し、その日の天候、現地の地形、使用する道具等に応じたきめの細かい注意事項をTBMのなかで指示した。

また、危険箇所、不安全行為を見つけたら誰でも遠慮なく注意しあえるようにした。

(イ) 気象災害の防止

○ 雷対策

宮地部内は雷の巣と言われる程雷の発生が多く、特に7・8月は高海拔の天I作業が多く、毎日の対応が必要となった。

- a 雷雲の動向を見きわめる。
- b 危険を感じた時の避難場所を毎朝打合せる。
- c 危険を感じた時、まず金物を身体から隔すようTBMで指示。

○ 降雨対策

特に御厩野国有林では、下の部落では晴れていても山では雨が降る事が多いので降雨対策も重要なものとなった。

- a 雨合羽を常時携行
- b 着替えをミニバス、休憩所等に用意し、なるべく早く着替える。
- c 雲の状況を十分把握し、豪雨に対する下山時期を適格に判断した。
- d 土砂除け用の道具を常時ミニバスに積載。

(ウ) 通勤災害の防止対策

宮地部内の作業地は、乗政、御厩野両国有林、また、東上田、欠ヶ平両官行造林地と点在する。

一方年間1/3程度は流動化により隣接担当区への応援がある。

このため、狭い部落内の通行や、交通量の多い国道41号線、並びに国道257号線を通行する機会が多く、また冬期間は路面が凍結、積雪することもあるので次の事を実施した。

- a 始業、終業点検の確実な励行と定期点検の早期実施。
- b 安全当番は助手席に乗り、前後左右の確認、ミニバスの誘導等、運転手の補助者となり、安全運転に努めた。
- c 冬期間のスノータイヤ、チェーン等は早期に着装し、砂袋、スコップ等も常に携行した。

また、積雪で危険な場合は無理をせず徒歩で現地へ行った。

4. おわりに

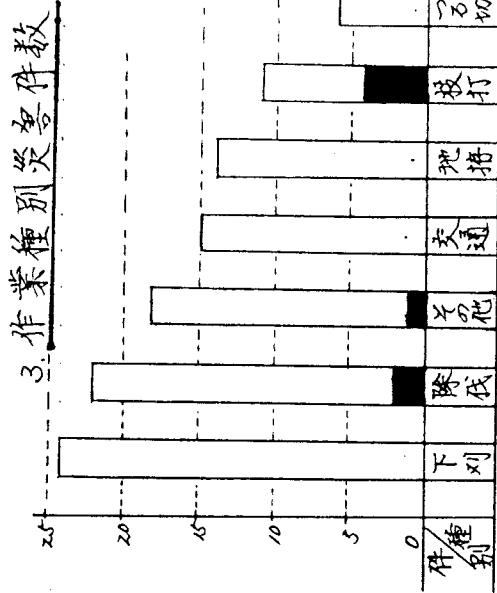
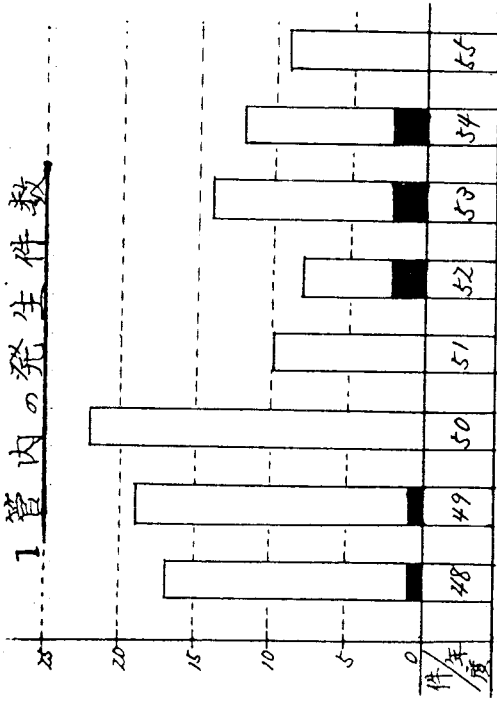
以上述べたように、毎日の平凡な安全活動の積み重ねが班員の安全意識の向上につながり一人ひとりが班全体の安全に気を配る楽しい職場作りができた。

その結果、12年間30万時間の無災害記録が達成されたものと思う。

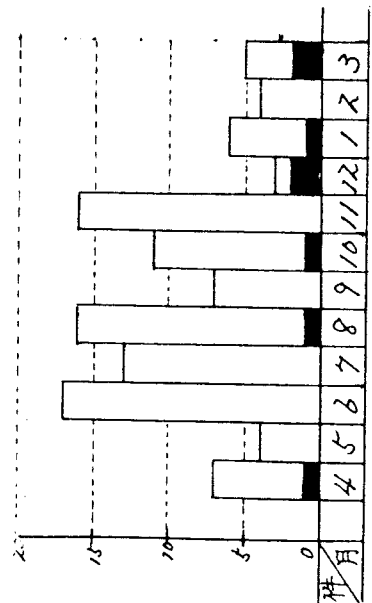
私の班は、来年度も遠距離の天工作業と除草剤散布、また、他の担当区への流動化等、今年度に引き続き実行される予定である。

来年度も一人ひとりが健康で災害のない明るい職場作りに専念し、今後もこの記録に満足する事なく50万時間を目指して頑張りたいと思っている。

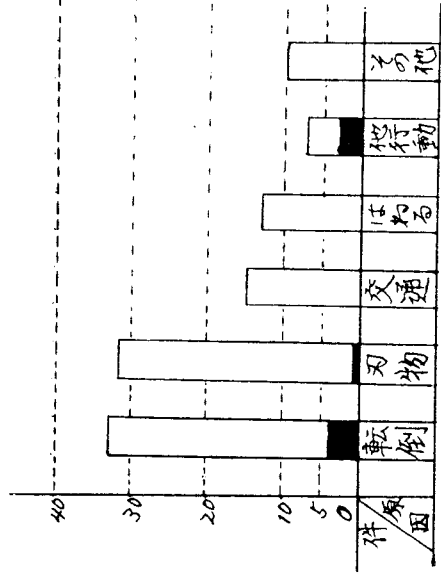
図一1 造林事業の災害発生状況 (S 48 ~ S 55)



2 月別発生件数



4 原因別発生件数



雇営林局
 下呂営林署